

Kyosho Vision Next

京商ビジョンNEXT

= 価値創造都市への挑戦 =

京都商工会議所 平成28年11月8日

京商ビジョン NEXTの策定にあたって ～価値創造都市への挑戦～

日本各地で「地方創生」「一億総活躍」に向けた取り組みが始動しています。世界に先駆けて人口減少・超高齢社会へと突入した我が国は、この大きな壁を打ち破り、未来への道を切り開くことが求められています。

京都では、そうした課題にいち早く対応し、2040年のありたい姿として「世界交流首都・京都」を掲げた「京都ビジョン2040」を、行政、産業界をはじめとするオール京都で策定し、これまで具体的な施策を推進してきました。その成果のひとつとして、本年3月には、全国の地方創生を加速するための「文化庁の京都移転」という歴史的な決定を迎えることができました。

京都商工会議所では、「世界交流首都」の柱のひとつである「価値創造都市・京都」を実現するために、「知恵産業のまち・京都」を推進し、地域の特性や企業独自の強みを活かした「知恵ビジネス」への支援を展開してきました。知恵ビジネスが多様な産業群として集積する「知恵産業の森」を目指した取り組みは、行政や他の産業支援機関にも広がっています。本所知恵ビジネスプランコンテストをはじめとして、オール京都による支援によって知恵ビジネスに関連する認証を得た企業は1,500社にも及び、さらなる飛躍に向けた基盤が整いつつあります。

平成31年春には、京都経済百年の計である「京都経済センター(仮称)」が完成し、本所は同センターの中で重要な役割を担うことになります。オール京都の中小企業育成や知恵の連携、賑わい創出などの拠点となる同センターの機能を最大限に活かして、会員間のビジネスマッチングや交流の機会(Chance)を創出し、様々な事業に挑戦(Challenge)することによって、価値創造(Creation)を生み、次代に向けた変革(Change)を成し遂げることが、新たな3年間の大きなテーマとなります。

「京商ビジョンNEXT」では、京都経済センター(仮称)の機能と協働しながら4C(Chance, Challenge, Creation, Change)を循環させることによって、多様な知恵産業群の「集積」をはかることを目指しています。知恵の連携や販路開拓への支援を強化するとともに、文化や創造性を活かした産業振興、観光・交流の推進など、京都の文化力、文化資源を活かした事業を展開します。

このビジョンは、サードステージまでのビジョンを継承・発展させるとともに、“次なる展開”に向けた試行的なプランも盛り込んでおり、そうした思いを「NEXT」というネーミングで表現しました。次代の京都を創生するために、「知恵産業の森」の実現に向けた支援を強化し、会員の皆さんとあらゆる分野で新たな価値創造に挑戦する3年にしたいと考えています。

平成28年11月8日

京都商工会議所 会頭 立石義雄

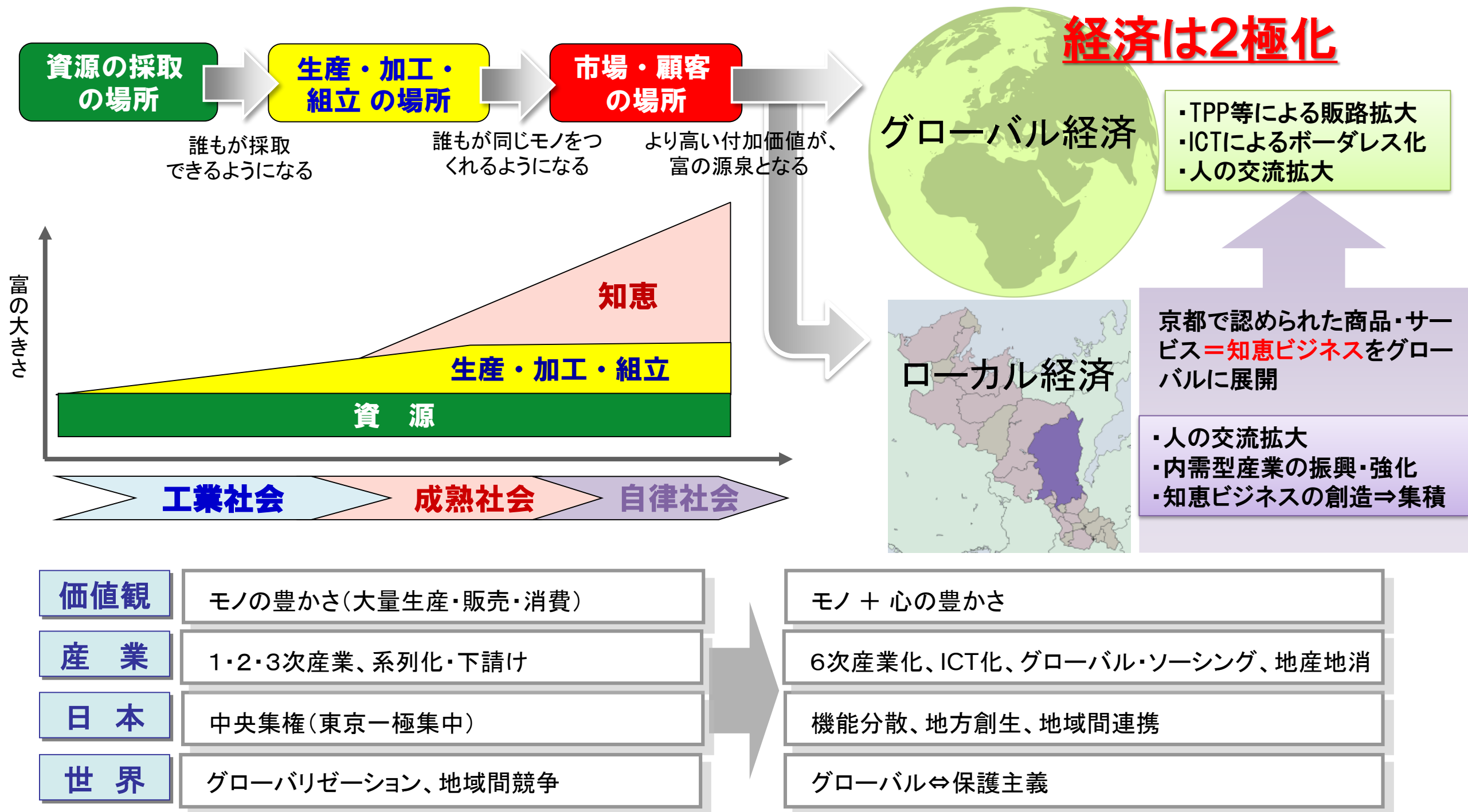
目次・行動理念

➤	時代背景 知恵をローカル経済に活かす時代へ	・・・ 4
➤	施策のコンセプト「世界交流首都・京都」の実現に向けて	・・・ 5
➤	ビジョンの施策体系図	・・・ 6
➤	めざしたい姿 知恵が集積し活力溢れる京都産業	・・・ 7
➤	めざしたい姿 多様な人々が交流し創造性豊かなまち	・・・ 9
➤	めざしたい姿 会員とともに挑戦し続ける京商	・・・ 11

京都商工会議所 行動理念

1. 京都商工会議所は、1200年の歴史・伝統・文化に培われた京都を愛し、世界に開かれた活力ある京都産業の発展を目指します。
2. 京都商工会議所は、進取の気風と文化を育んできた先人の精神を継承し、京都の都市格の向上を目指します。
3. 京都商工会議所は、会員のニーズに的確に対応し、信頼され、行動・挑戦し続ける地域総合経済団体を目指します。

知恵をローカル経済に活かす時代へ



- 社会のボーダレス化が進み、市場・顧客に誰もが容易にアクセスできるようになり、高い付加価値が富の源泉となる時代となる。
- 人と知恵による創造的な活動が、より大きな付加価値を生み、都市の持続可能な成長の核となる。
- 超高齢化・人口減少に伴う新たな社会ニーズに、地域の生活文化に密着した中小企業の知恵を活かして対応することが重要となる。

京商では知恵ビジネス育成をビジョンの柱に位置づけ、ファーストステージでは「知恵の啓発・育成・発展」、セカンドステージでは「知恵の誘発」、サードステージでは「知恵の連鎖」を目指して重点的に取り組んできました。

新たなビジョンでは、知恵の連鎖を拡大するとともに、**京都経済センター(仮)**を創造的な知恵の連携拠点として整備することにより、知恵ビジネス支援や、文化や学術との連携など様々な知恵の交流の場を設け、「**知恵の集積**」を一層はかることによりイノベーションを誘発する取り組みを推進します。

京都経済センター(仮称)8つの機能

1. 交流と協働の促進
2. 戦略的産業振興施策の推進と情報発信
3. 中小企業の育成支援
4. 産学公連携の推進
5. スマートシティ・スマートコミュニティ(地域創生)の実現
6. 海外への販路開拓と海外からの投資促進
7. 繊維産業の振興
8. 産業人材育成支援



ビジョン NEXT 知恵の集積

京都経済センター(仮称)完成
(2019年1月予定)

【サードステージ】連鎖(2014～16年)

オール京都で知恵ビジネスを創造し、1400を超えるビジネス群を形成した。

【セカンドステージ】誘発(2011～13年)

個別支援と併せて、オール京都で知恵ビジネスの創出サイクルを組織的に支える仕組みを整えた。

【ファーストステージ】啓発・育成・発展(2008～10年)

個別支援を通じて、啓発・育成・発展という知恵ビジネスの創出サイクルをつくりあげた。

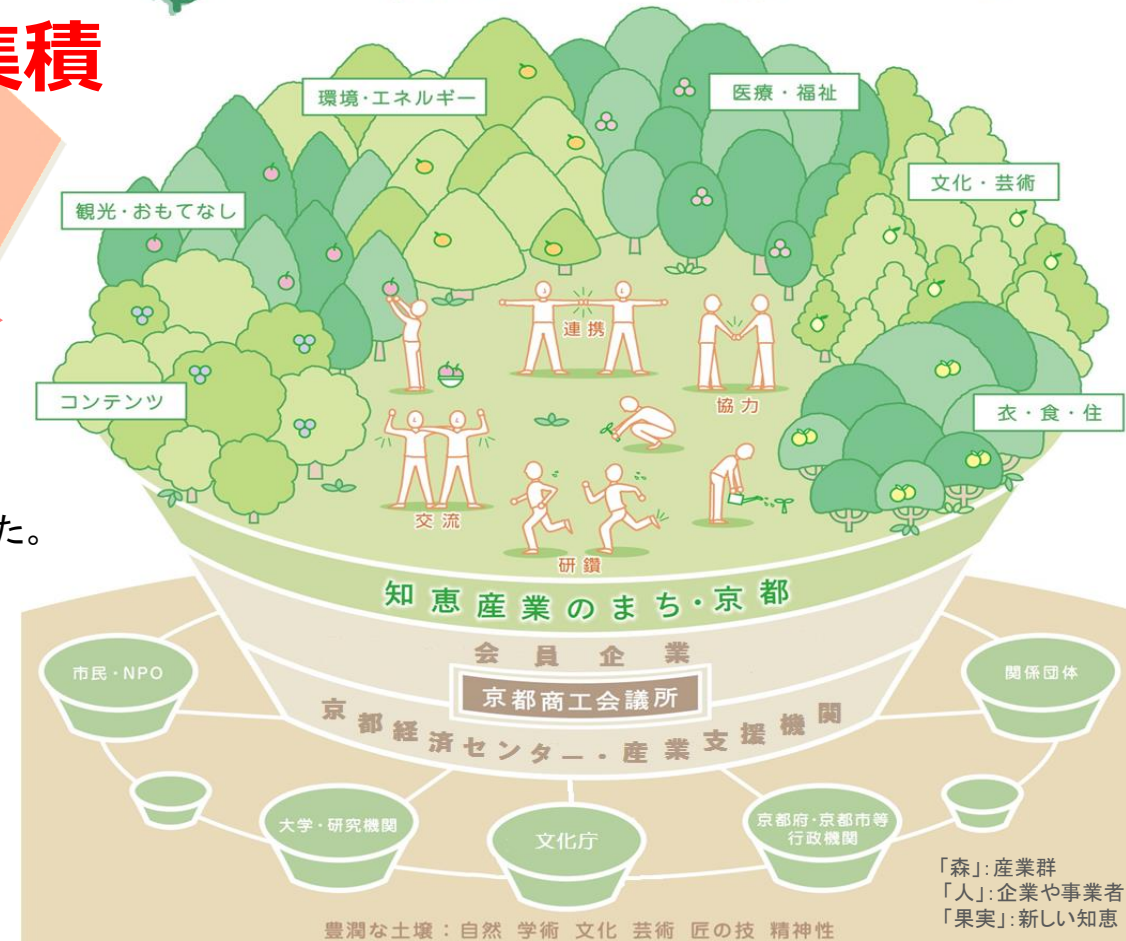
京都が目指す社会像 京都ビジョン2040

世界交流首都・京都

日本文化の中枢として、知や精神、人と人との交流、文化や産業の大交流を創り出し、活気と創造性に溢れる都市。

世界の文化首都・京都
大学のまち・京都
価値創造都市・京都

連携と文化の力で大きく育つ 知恵産業の森



観光・おもてなし、健康・医療・福祉、食、農商工連携など様々な分野で、伝統産業から先端産業までの幅広い知恵ビジネスの木々が群生する「知恵産業の森」。京商は、ニュー京商ビジョン「知恵産業のまち・京都」の着実な推進により、「価値創造都市」を実現し、**京都ビジョン2040**「世界交流首都」へとつなげます。

ビジョンNEXTの施策体系図

基本方針

3つのめざしたい姿

重点項目

知恵産業のまち・京都の推進

知恵が集積し活力溢れる京都産業

知恵ビジネス企業3,000社の集積をはじめ、頑張る中小企業の成長を実現するために、京都経済センター(仮称)への移転を機に本所の支援力を充実させ、新たな社会ニーズや価値観、ライフスタイルに応える製品・サービスを生み出す多様な知恵産業群の形成を図る。

多様な人々が交流し創造性豊かなまち

文化と創造性によって革新を繰り返してきた京都産業の強みを活かし、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催や文化庁の移転を見据え、文化を活かした産業振興や「京都文化カプロジェクト」の実施などを通じて、人、文化、産業の多様な交流を生み出し、全国の地方創生を牽引する。

会員とともに挑戦し続ける京商

京都経済センター(仮称)を賑わい拠点とするために、会員参加型の交流・サービス事業を強化するとともに、国内外へのビジネス発信基地、災害時における安心・安全の基盤として整備することで、会員価値・満足度の向上と本所の組織基盤の強化を図る。

京都経済センター(仮称)
8つの機能との協働

A1. 知恵ビジネス支援

A2. 中小企業しっかり応援

A3. 販路開拓支援

A4. 人材確保・育成支援

B1. 文化×産業の創造

B2. 文化・観光都市の推進

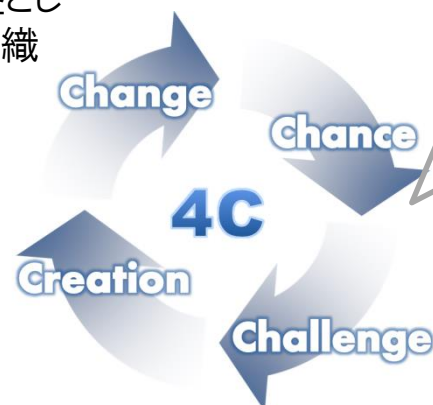
B3. 京都のブランド価値向上の推進

B4. 交流と賑わいの都市づくり促進

C1. 会員交流・サービスの充実・強化

C2. 情報発信機能の強化

C3. 組織基盤の強化



ビジネスマッチングや交流機会(Chance)を創出し、様々な事業に挑戦(Challenge)することによって、価値創造(Creation)を生み、次代に向けた変革(Change)を成し遂げる。

重点項目 A1. 知恵ビジネス支援

次代の京都産業を支える知恵ビジネスの芽をさらに創出するとともに、企業間のコラボレーションの促進を通じて多様な「知恵産業の集積」を加速化させ、イノベーションを誘発する取り組みを推進します。

Action Plan

- 京都経済センター(仮称)を拠点とするオール京都による知恵ビジネス支援の推進
- 「知恵ビジネスプランコンテスト」など知恵産業の集積に向けた支援の実施
- 「知恵産業の森」実現に向けた「知恵ビジネス・プラン3000社創出支援プロジェクト」の推進
- クラウドファンディング等の活用を通じて多様なビジネスを支援する「知恵ビジネス・スタートアップ事業」の展開
- パリ商工会議所との友好協定調印30周年にあわせた「知恵ビジネスメッセ in PARIS」の開催
- 産学公連携による京都イノベーションベルトの推進
- 京阪神の連携によるライフサイエンス関連産業振興の推進

重点項目 A2. 中小企業しっかり応援

経営の安定・強化をしっかりとサポートするために、支援体制やメニューを再構築し充実します。また、持続的な成長に向けて創業・事業承継や生産性向上等への支援を強化します。

Action Plan

- 経営課題解決に向けた京都経済センター(仮称)における「中小企業応援隊」活動など支援体制の再構築
- 経営発達支援計画に基づく伴走支援の強化
- 「創業ビジネスサロン」の開催など次代を担う産業育成のための創業・事業承継支援事業の強化・充実
- 「IoT活用セミナー」の実施など中小企業のIT化促進
- 企業の競争力強化を目指した環境経営への取り組み支援

重点項目 A3. 販路開拓支援

首都圏、海外等のマーケットや成長分野に挑戦する意欲的な事業者の商品開発や販路開拓への支援を充実します。また、新たな顧客創造を効果的に支援するためにマッチング機会や需要動向の提供を強化します。

Action Plan

- オール京都による首都圏販路開拓支援事業「京都知恵産業フェア in TOKYO」の開催
- 新たなマーケットの開拓に向けた「テーマ別商談会」や事前マッチング型の「マンスリー商談会」の開催
- JETROとの連携による「海外ビジネス相談デスク」の運営など海外販路開拓支援の強化
- 京都の産業特性を活かした京都ブランド海外展開への支援充実
- パリ商工会議所との友好協定調印30周年にあわせた「知恵ビジネスメッセ in PARIS」の開催(再掲)

重点項目 A4. 人材確保・育成支援

中小企業の人材確保に向けて、大学等と連携しながら中小企業の魅力の発信や企業と学生のマッチングに取り組みます。未来を担う産業人材を育成し、女性など多様な人材の活躍を促進することで、地域の活力を創造します。

Action Plan

- 中小企業の人材確保のための「京商インターンシップコンシェルジュ事業」の展開
- 情報発信力強化のための「知恵キラリ 京の中小企業会社説明会」の実施
- スキルアップや知識習得など産業人材育成を推進する「京商ビジネススクール」の拡充
- 京都ウィメンズベース等との連携による中小企業のダイバーシティ推進

重点項目 B1. 文化×産業の創造

京都の文化や創造性、伝統産業などの強みを活かして、新たな価値やビジネスモデルを生み出すために、文化、産業など多様な分野で知恵の連携を加速させます。

Action Plan

- 新たな価値創造を図るクリエイティブビジネス創出に向けた中小企業のための「オープンイノベーション」促進
- 「和装(きもの)文化」のユネスコ無形文化遺産登録に向けた支援の実施
- 伝統産業の技術伝承とイノベーションに向けた「伝統産業ステップアップサロン」の実施
- 農商工連携による食の6次化等の推進

重点項目 B2. 文化・観光都市の推進

文化庁の京都移転を契機として、文化、スポーツをはじめとする多様な地域資源を活かし、新たな魅力づくりを図る観光の振興に取り組めます。

Action Plan

- 文化財や産業遺産の活用など新しい観光資源の開発推進
- スポーツやコンテンツビジネスなど京都産業を活かすインバウンド資源の発掘
- 地域文化・資源を活用した新たな広域観光プログラムの開発・推進
- 「クリエイティブ産業モデル企業探訪ツアー」、「京都工芸の美学校」など中小企業の魅力を発信する産業観光プログラムの実施
- 観光事業者などサービス産業分野のおもてなし力向上のための事業の推進

重点項目 B3. 京都のブランド価値向上の推進

世界が憧れる都市ブランドを確立するために、産業やまちづくり、人材育成などの各分野で、京都の知恵や文化、おもてなしを磨き上げるとともに、京都ブランドの魅力発信に取り組みます。

Action Plan

- 新たな伝統を創造する「京都創造者大賞」の展開
- 1級複数回合格者を表彰する「マイスター制度」や団体受験者による「G-1グランプリ」の実施など京都検定の活性化
- 京都MICE振興のためのMI誘客活発化の推進
- 「京都文化カプロジェクト2016-2020」の推進と「文化×産業展覧会2020(仮称)」の実施

重点項目 B4. 交流と賑わいの都市づくり促進

国内・海外からの集客増加と質の高い交流を実現し、地域の活性化に結び付けていくために、モデルとなる交流拠点・エリアを整備するとともに、交流効果を拡大するためのインフラ整備やまちづくりを推進します。

Action Plan

- 宿泊施設の確保に向けた町家の活用や大型宿泊施設誘致の促進
- 京都駅西部・東部エリアなど新たな賑わい拠点の整備促進
- 安心・安全で快適な歩行者空間の確保、次世代交通システム、良好な都市景観の整備促進
- 北陸新幹線・リニア中央新幹線の全線早期開通の促進
- 京都スタジアム(仮称)の建設促進

重点項目 C1. 会員交流・サービスの充実・強化

会員の絆・ネットワークをさらに強化し拡大するために、多様なテーマや分野で交流事業を実施します。会員満足度のさらなる向上に向けて、会員価値やメリットを実感できるサービス・事業の開発を推進します。

Action Plan

- 全会員の参加を目指した「会員のつどい」など「会員交流強化プロジェクト」による多様な交流事業の実施
- 会員サービス拡充検討会議による新たなサービスの開発など会員価値・満足度の向上
- 会員優待サービスの拡充と利用促進
- 会員企業の視察・交流会やトップリーダー講演会等の実施

重点項目 C2. 情報発信機能の強化

会員のビジネスに役立つ情報や本所に関する情報をSNS等多様なメディアで効果的に発信するとともに、京都経済に関する情報発信拠点として京都経済センター（仮称）を活用します。

Action Plan

- 京都経済センター（仮称）における経済界や京都企業の情報発信拠点の整備
- SNS、フリーペーパー等を活用した広報・情報発信事業の充実

重点項目 C3. 組織基盤の強化

京都経済センター（仮称）への移転を組織の強靱化につなげるために、会員増強や財政基盤の強化に取り組みます。支部体制の見直しなど事務局機構や事業・サービスの改革を図ります。

Action Plan

- 会員の拡大・定着に重点を置いた会員増強運動の実施と財政基盤の強化
- 京都経済センター（仮称）への移転にあわせた各種記念事業の実施
- 大規模災害等に備えたBCP対策の推進

PDCAサイクルによる事業の進化

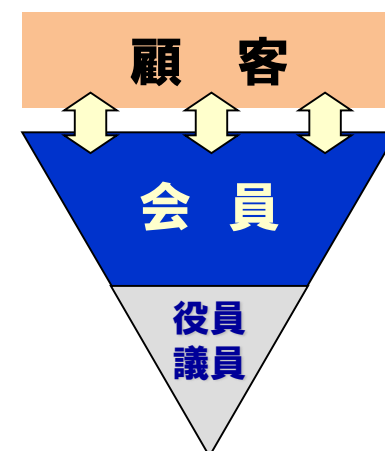
京商ビジョン NEXT（3カ年）

事業計画（毎年）



ビジョンに基づく毎年の事業計画では、客観的な指標を設定し、PDCAによる効果検証を行います。効果検証をもとに、事業をさらに進化させます。

ボトムアップ型の組織運営



顧客を創造する会員が主役であり、自律した部会運営のもと、会頭を含め役員・議員が支える「ボトムアップ型」の組織として、逆三角形の運営を展開しています。